

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 飯山小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 三橋 弘明

学校教育目標		学校経営の方針		
元気いっぱい 楽しく学び 自信をもって 未来を拓く 飯山の子		・教師がやりがいを感じる学校 ・児童が楽しいと感じる学校「飯山の子 育成方針」 ・家庭、地域から信頼される学校		
今年度の重点目標				
(1)【学力の伸長】……知的好奇心を大切にしたいわかる・できる・楽しい授業づくり、家庭学習の習慣化 (2)【豊かな心の育成】…楽しく活気のある学校づくり、児童指導・支援体制の充実 (3)【安全教育の推進】…自他の安全を守ろうとする判断力と行動力を育む安全教育の推進、元気を生み出す健康・体力の充実				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【学力の伸長】 知的好奇心を大切にしたいわかる・できる・楽しい授業づくり	1・2	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行った。	○校内研を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究を実施した。 ●単元や学年を横断した系統的な指導において、全体での方向性の確認や重点の明確化など、さらなる研究の推進が必要と感じている。 ○話し合い等で、Chromebookの機能をより効果的に活用できるように、タイピング力を向上するための教材を全校に紹介し、積極的に利用した。 ●「あまり勉強が好きではない」、「勉強がつまらない」との意見回答が見られた。	・児童の知的好奇心を大切にしたい、わかる・できる・楽しい授業づくりを推進していくとともに、学び続けられる授業デザインを意識し、実践していく。 ・Chromebookのさらなる活用を図る。
	1	・国語科、算数科における知識・技能の定着を図った。	○「類語集め」「言葉の宝箱」等の活動を推進し、「語彙を増やす活動」「タイピングソフトプレイグラム」「デジタルドリル ドリルプラネット」「デジタルドリル eライブラリアドバンス」等のミニ研修を実施した。 ○朝学習の飯山タイムで定期的に100マスかけ算を実施した。また、いつでも活用できるよう教材を整備した。	・学校で「つけたい力」を共通理解し、年間を通して取り組む活動を設定する。 ・漢字・計算ドリルの指導方法の統一などを図る。 ・飯山タイム、飯山チャレンジをさらに充実させていく。
	1	・地域素材を生かした「生活科」「総合的な学習の時間」の充実を図った。	○みのりリファーム、飯山の人的資源の積極的な活用を目指し、全教職員で共通理解を図った。また、令和6年度の生活科、総合的な学習の時間の指導計画素案を作成した。	・令和6年度を通して、「ふるさと飯山」を意識した教育計画を完成させる。 ・学習・環境ボランティアの活用も含め、教育課程の編成において、地域等の参加内容を工夫していく。
	1	・学校図書館活用の充実を図った。	○夏休み期間中に講師を招いて研修を実施した。 ●学校司書によるメンター研修は未実施であったが、来年度は、実施していく。	・並行読書の推進など、授業改善との関連からも、図書館の利活用につなげていく。

【学力の伸長】 家庭学習の習慣化	1・2	・家庭と連携した自主学習を推進した。	○Chromebookを利用したデジタルコンテンツ教材を、全学年で日常的に利用してきた。 ●Chromebook持ち帰りの約束やきまり等を確認しながら、本格的な実施計画を進め、家庭における利活用の推進を図っていく。	・令和6年度からChromebook持ち帰りを日常化し、デジタルコンテンツによる宿題や自主学習の活用を行っていく。 ・保護者へデジタルコンテンツ活用の啓発文書を配付するなど、理解と協力を得ながら連携を図っていく。
【豊かな心の育成】 楽しく活気のある学校づくり	2・3	・よりよい学級をつくろうとする学級活動の充実を図った。	○各行事に向けての準備に、児童らが意欲的に取り組む姿があり、振り返りも充実したものになった。各学年によって、Chromebookを活用したり、パンフレットの形式にしたりして振り返りをまとめていた。	・引き続き、PDCAサイクルによる活動を進めていく。
	2・3	・児童の創意工夫を生かした児童会活動の充実を図った。	○年間を通して、代表委員会での行事の振り返りが充実したものになった。それぞれの学年を称賛する意見が多く出ていた。 ●運営だよりで話し合いの意見を発信しているが、より効果的な発信の仕方を考える必要がある。	・縦割り班で、遊びや学びを企画できるよう、児童による自治力の向上とリーダーシップの育成につなげていく。 ・校内掲示物や放送等を活用するなど、児童の意見を吸い上げ、広報のあり方を工夫していく。
	2・3	・お互いを認め合い、高め合える人間関係の育成を図った。	○児童の情報交換を毎月実施し、課題の共有を行うことができた。 ○一人一人のよさなどを共有することができた。	・教員が児童のよいところを見つけ、共有できるようにしていく。
【豊かな心の育成】 児童指導・支援体制の充実	1・2・3	・自己肯定感を高める指導と支援を行った。	○キャリアパスポートを使って自分や友達のよいところを見つけ自己肯定感が高まった。運動会の振り返りをはじめ、1年間の振り返りでは、保護者からコメントを書いてもらうところがあり、より効果的だった。	・児童の自己肯定感が高まるように、今後も継続していく。
	2	・全職員による児童理解・チーム支援を推進した。	○各担任が児童指導・支援の出来事をまとめ、記録をもとに情報の共有を行うことができた。 ○記録を取ってこまめな情報共有を図ることで、チームで児童を支援していく体制づくりが進んだ。 ○インクルーシブ教育推進の一環として、「みんなの教室」を設置することができた。相談体制として、保護者からの肯定的な意見も多かった。	・今後も記録の集約、情報の共有を継続していく。 ・全職員が力を合わせ、「みんなの教室」のさらなる充実を図っていく。
	2	・児童の成長につながる児童指導を進め、問題行動の「未然防止」「早期発見」「適正な対応」を図った。	○毎学期の児童アンケートの活用や2学期の児童面談の実施により、児童の困っていることに早期に対応できた。	・教員間で連携を取りながら、予防的な児童指導を、引き続き進めていく。

【安全教育の推進】 自他の安全を守ろうとする判断力と行動力を育む安全教育の推進	2・3	・交通安全「地域とのふれあいを大切にした交通安全教育の充実」を図った。	○地域企業の協力のもと、今年度はトラックの内輪差、死角体験を実施した。校外役員や見守りボランティアの方々にも参加していただき、登下校の安全について、学校全体で取り組むことができた。 ○児童の登下校の見守りについて、PTAや地域の方々の協力により、安心・安全に登下校することができている。見守りの中で、登校班で困っていることや気になっていることなども情報を共有し、指導にあたることができた。	・防犯ブザーや自転車用ヘルメットの着用について、学期ごとに実施月を決めて、状況を確認した上で、各学年に応じた指導を実施していく。
	1・2・3	・災害安全「地震に備えた防災訓練の充実」を図った。	○火災、地震に対しての避難経路の確認。あらゆる場面を想定した避難を考えて訓練することができた。児童は、事前、事後指導を受けて、訓練の振り返りを行うことで、自分の身の守り方について考えを深めた。 ●西門、東門の開錠や大階段の状況確認など、教員数も少ない中ではあるが、全職員で臨機応変に対応にあたる必要がある。	・災害後の体育館への二次避難についても、避難経路を確認して、実施を検討していく。
	2・3	・生活安全「安心・安全な学校づくり」を推進した。	○毎月の安全点検を通して、校内環境の維持、改善を図った。	・定期的に点検項目や箇所を確認しながら、取組を継続していく。
【安全教育の推進】 元気を生み出す健康・体力の充実	1・2	・体力づくりの充実(体力づくり旬間、外遊びなど)を図った。	○冬の寒い時期を中心に、全校による年2回の体力づくり旬間を実施し、意欲的に取り組む児童の様子から、健康の増進と体力の向上につながる意欲づけとなった。また、保護者の参観による「飯山マラソン」は、児童の励みや頑張りの機会となった。	・全校で重点的に行う取組として、時期を決めてできることを継続していく。
	2・3	・基本的な生活習慣の確立を図った。	○アンケートによる定期的な実態把握を行うとともに、感染症、インフルエンザなど予防のために、手洗いやうがいなどの基本的な対策を継続して行った。 ○環境保健委員会の活動の一つとして、手洗い、うがいを呼びかけるポスターを制作し、啓発に努めた。	・児童のさらなる健康増進に向けて、取組を継続していく。
	2・3	・清掃活動の推進を図った。	○ペア学年の清掃活動や縦割り班の除草作業など、小集団としての活動を年間を通して実施した。 ○清掃活動へのボランティアの募集を実施したことで、行き届かない清掃場所を手伝っていただいた。 ●除草作業の必要な時期、気温の判断においては、あらゆる状況を想定し、計画・実施していくことが求められる。	・引き続き、積極的なボランティア清掃の協力を求めている。 ・縦割り班活動の充実を図る。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
今年度の飯山小学校グランドデザインに基づいた各グループの取組とその成果と課題について理解をいただいた。また、委員の方からは、「飯山の自然を活用した飯山チャレンジの取組がよい」「いろいろな分野で大勢のボランティアが協力している。」「さらに地域とのふれあいを多くしていきたい。」「ボランティア活動への協力依頼やPRをもっと進められるとよい。」「飯山小学校の児童は声をかけると話をしてくれる。明るい。だから、朝のあいさつは元気にしてほしい。」「児童、教員、保護者、地域と協働し、ともに考えていきたい。」「児童、保護者、教職員で学校教育アンケート結果にばらつきがあるため、内容の検討をしていく必要もある。」との建設的な意見や教示をいただいた。これからも、お互いに連携を図り、恵まれた自然環境や小規模校のよさを生かした特色ある教育活動を協働し推進していくことを確認した。
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針
学校教育目標の実現のため、本校の特色を生かした教育活動を推進してきた。「学力の伸長」「豊かな心の育成」「安全教育の推進」の3分野でのグループ会議を通して、重点目標や具体的な取組を確認し、実践につなげることができた。「ふるさと飯山」を基軸とした取組において、今年度は、創立40周年の記念行事や式典を実施することで、地域の人材や環境を活用した協働活動を推進することができた。また、「飯山チャレンジ」をはじめとするボランティア活動が広がり、多くの機会子どもたちの生き生きとした様子が見られた。誰にとっても居心地のよい学校づくりの一環として「みんなの教室」を設置し、インクルーシブ教育の充実に努めている。 次年度も、様々な体験活動を通して学びをさらに充実させていくとともに、地域の人材や教育資源、素材を活用した「ふるさと飯山」の教育を前進させていきたい。その過程において、保護者や地域とともに全職員が当事者意識をもって主体的に学校運営に参画し、よりよい学校づくりを目指していく。